

4 公園整備計画

(1)「浜見平地区まちづくり計画」における位置づけ

公園整備計画については、「浜見平地区まちづくり計画」において「緑・歩行者ネットワーク」として、次のように位置づけられています。

＝「浜見平地区まちづくり計画」における公園整備計画の位置づけ＝
(公園整備関連のみ抜粋)

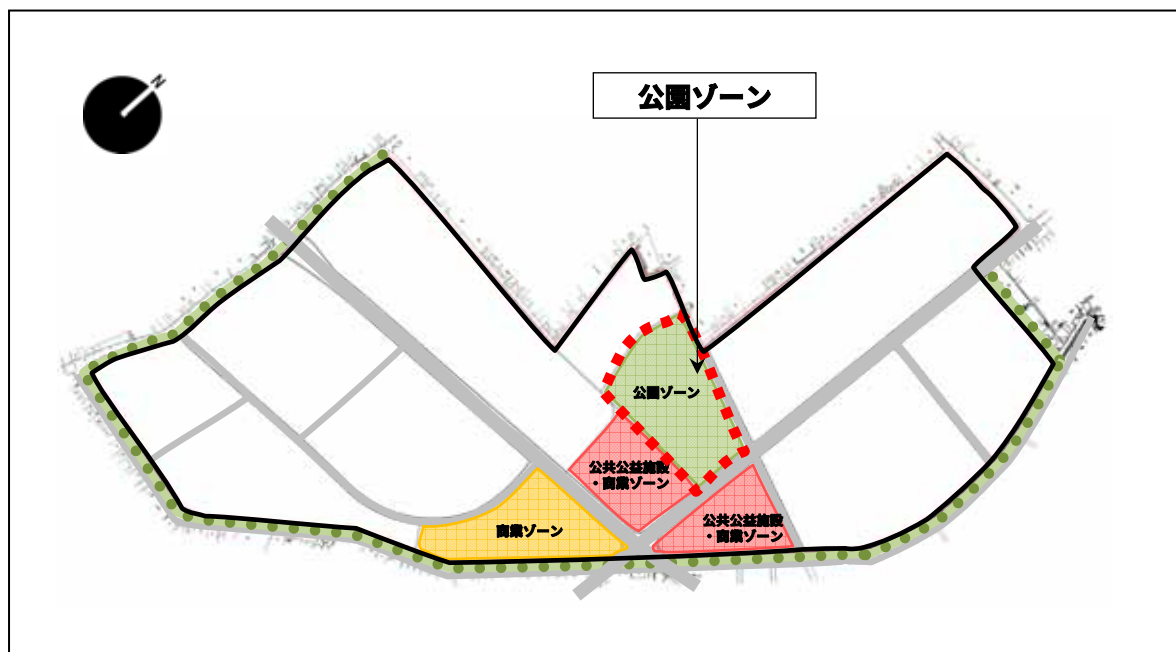
■基本方針■

- 既存の緑を生かしながら、「地域の緑の拠点」としての充実を図る。また、緑のネットワークに加え、身近なプレイロット*や広場等を連続させ、防災上安全な避難経路や地域の散策路として整備を図る。
- 地域に不足するオープンスペースとして、スポーツ・レクリエーションに対応し、災害時には防災拠点としても活用される公園を整備する。

■公園・緑地計画■

●地区公園の整備

- ・地域のスポーツやレクリエーションに対応し、災害時には避難場所として機能する約1.4ha程度の公園を整備する。



■公園ゾーン位置図

*プレイロット：遊び場。小遊園地。特に住宅街などで、子供などが遊べるように作られた土地の一区画。

（２）整備方針

生活拠点ゾーン内の公園整備については、「浜見平地区まちづくり計画」を踏まえ、以下の方針に基づいた計画とします。

●多様な世代が集い・憩う地域の交流の場を形成します。

- ・地域住民の憩い、暮らしを楽しむことのできる場として、スポーツやレクリエーションに対応した施設や機能を導入します。
- ・商業施設、公共公益施設との連携のもと、お祭りやイベント等の場として機能し、様々な世代が集い・交流を育む公園を整備します。
- ・グラウンド機能の継続については、地元住民の強い要望があることから、今後、UR 都市機構とともに検討していきます。

●団地の記憶を継承する空間デザインを図ります。

- ・長い年月育まれてきた団地の記憶の継承に留意し、既存の施設（シロヤマなどシンボリックな施設）の活用を図るほか、富士や丹沢の眺めなど、郷土らしさが感じられる眺望景観を保全します。



■シロヤマ（築山状の遊具）

●緑や水辺により、自然や潤いが感じられる環境をつくります。

- ・団地内の既存樹の保存や移植等により、これまで育まれてきた自然を保全・活用し、緑豊かな環境を形成します。
- ・雨水等を活用したせせらぎを配置するなど、自然や潤いが感じられる水辺空間の創出を図ります。

●地域の安全性を高める防災機能を導入します。

- ・準防火地域内において耐火建築物（団地住棟）に囲われるオープンスペースを生かした市南西部の避難拠点として、被災住民等の受け入れに対応した備蓄庫や防災トイレ等の施設を導入するほか、延焼防止効果のある樹種植栽などを施します。
- ・公園に至る幹線道路、松尾川緑道などの緑や歩行者空間とのネットワーク化を図り、周辺地域からの安全でスムーズな避難経路を確保します。（P93 参照）

(3) 導入機能

整備方針を踏まえ、以下のような機能を複合的に導入することにより、多様な世代間の様々なニーズに応えるとともに交流を育む場となり、また、これまで育まれてきた団地のコミュニティの記憶を継承する公園の整備を図ります。

ア 交流

様々な世代が公園に集い、憩うことのできる場を設えるほか、お祭りやイベントなどに対応するオープンスペースの確保を図ります。

【導入施設】

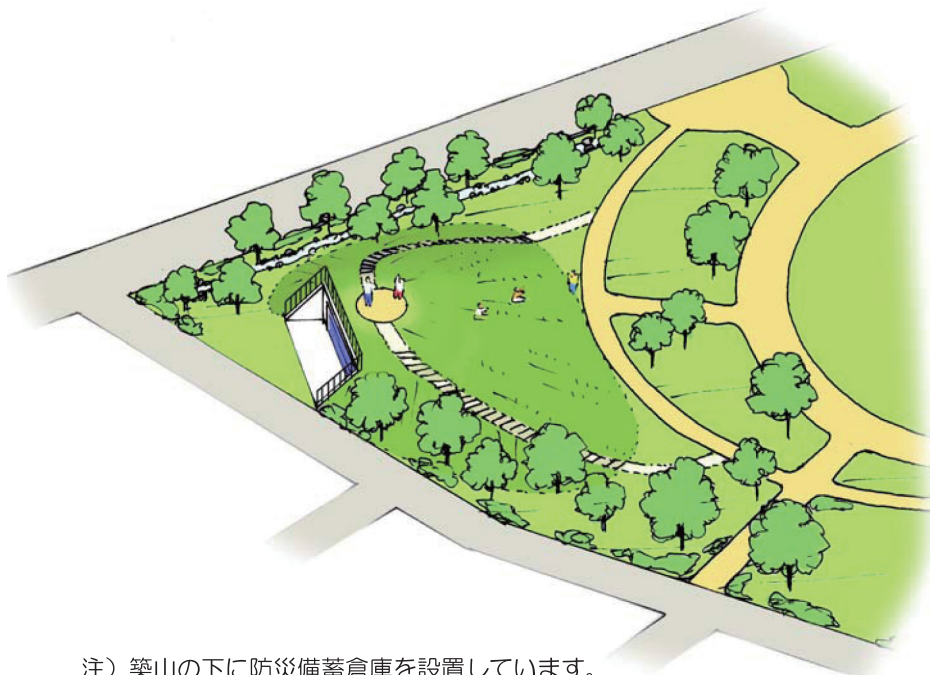
- ・多目的広場：お祭りなど多人数のイベントに対応する、自由度の高い広場
- ・エントランス広場：ストリートパフォーマンス等、小規模なイベントの場
- ・休憩施設：ベンチやパーゴラ*、木陰など憩いを支える施設
- ・花壇：人々が集い、花を愛でる場
- ・眺望ポイント：築山などより富士山・丹沢を眺める場



■パーゴラの事例



■築山の事例



注）築山の下に防災備蓄倉庫を設置しています。

■築山のイメージ

*パーゴラ：つる性の植物をからますために、屋根に木材等で格子等を組んだ棚（ふじ棚など）。開放的な日除けの場として、庭園、公園などに設けられます。

イ 健康増進

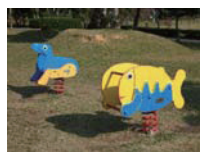
遊具を使った遊びやスポーツなど活動的な運動、散歩などの軽微な運動など、様々なニーズに対応し、多様な世代が健康増進活動に取り組むことのできる施設を導入します。

【導入施設】

- ・ 遊具：滑り台やブランコなど、主に子どもの遊びに対応する遊具
- ・ 多目的広場：スポーツ等のできるグラウンドや広場
- ・ ジョギング・散策路：ジョギングや散策のできるコース
- ・ 健康器具：フィールドアスレチックなどの健康器具



■ 複合遊具の事例



■ 小遊具の事例



■ 健康器具の事例

ウ 自然共生

植栽や水などを生かしながら、自然とのふれあいを楽しむことのできる施設を導入します。

【導入施設】

- ・疎林（そりん）：木漏れ日があり、木の間に散策のできるまばらな林
- ・せせらぎ：雨水などを活用した、自然とのふれあいを感じられる水辺



■せせらぎの事例

エ 防災

災害時に公園を避難拠点として転用する上で、被災者の安全や暮らしを支える施設を導入します。

【導入施設】

- ・防災備蓄倉庫：飲料水や食料、毛布など備蓄資機材の保管倉庫
- ・防災対応施設：トイレやかまどに転用する設備など



■防災備蓄倉庫内にある備蓄資機材の事例



■トイレ（防災トイレ兼用）の事例



（トイレ内スペースに災害用トイレを格納している。）

（４）ゾーニング計画

ア ゾーン区分

導入機能を踏まえ、以下のゾーン*により公園を構成することとします。

（ア）エントランスゾーン

- ・公園に隣接する公共公益施設、商業施設など一体となって、生活拠点ゾーンに集う人々が気軽に憩うことのできる賑わいの広場として、公園のメインエントランスを設えます。
- ・花壇やモニュメント*など、公園の入り口空間を特徴づけるシンボリックなデザインを施します。
- ・トイレや水飲みなど、人が集まる場としてのサービス機能を導入します。
- ・災害時には、医療施設等との連携のもと、救急活動等を行うことのできる空間とします。

（イ）交流ゾーン

- ・お祭りやイベントの開催も可能なオープンスペースとして、多目的な活動に対応する広場を配置します。
- ・広場での多様な活動を阻害しない範囲で、木陰の設置やパーゴラ、ベンチ等の配置を行い、心地よく休憩ができる場を確保します。
- ・災害時には、一時避難場所として仮設テントの設置や、応急仮設住宅の設置も考慮したものとします。



仮設テントの事例



応急仮設住宅の事例

（ウ）健康ゾーン

- ・遊具や健康器具、散策路などを主体に空間を構成し、多様な世代が楽しみながら健康増進を図ることのできるエリアとします。
- ・スベリ台やブランコなど、また、複合型遊具などを設置した子どもの遊びに対応した広場を確保します。
- ・大人の健康活動に向けては、ジョギング・ウォーキングコースを設置するとともに、コースに沿いフィールドアスレチックなどを配し、多様な運動に対応できる施設配置を行います。

*ゾーン：地帯・区域・範囲。ゾーニングとは、特定の範囲を、同様な性格・機能を持ついくつかの区域に区分すること。

*モニュメント：記念建造物。記念碑・記念像など。

(エ) 自然ゾーン

- ・ 落葉樹を主体とする木漏れ日の射すまばらな林を形成し、木立の中の散策路やベンチなどを設置し、自然とのふれあいの場として活用します。
- ・ 林の樹種には、鳥の好む樹などを選定し、小動物とのふれあいができる環境づくりを行います。
- ・ 一部にせせらぎを配置するなど、水辺の自然も感じられる場とします。
- ・ 自然な起伏による築山を築き、富士山や丹沢の眺望ポイントを整備します。

(オ) 公園外周部

- ・ 公園領域を縁取る植樹帯により、緑に囲まれた落ち着いた公園環境を形成します。
- ・ 植栽に際しては、延焼防止効果にも配慮し、防災公園としての安全性を向上します。

イ ゾーニング計画

各ゾーンの配置計画としては、より交流ゾーンの充実を図り、広がりある空間の中で多様なイベント等の開催を可能とする案（A案）と、健康ゾーンの充実を図り、多様な世代が思い思いの遊びや運動等を楽しむことのできる案（B案）との2案を考えることができます。

（ア）A案：交流ゾーンを主体に配置した計画

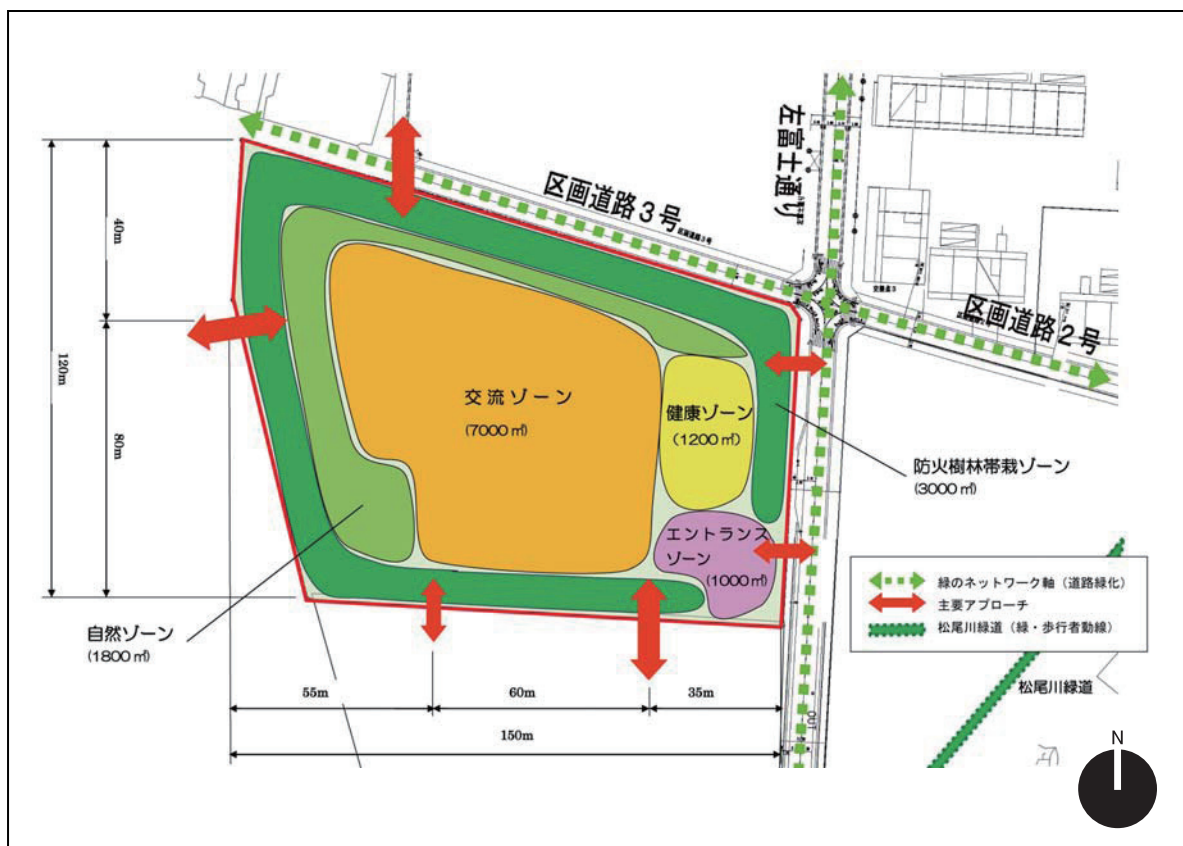
- 交流ゾーンを公園エリアの中央に大きく、確保します。

<メリット>

- ・広場機能が主体となるため、施設整備コストを抑えることができます。
- ・祭りなどの大人数のイベントを含め、多様なイベントの開催への対応が可能です。
- ・多目的広場のつくり方次第では、野球等のスポーツへの対応も考えられます。
- ・災害時には、避難地としての収容力に期待でき、避難者の柔軟な収容スペースの確保が可能です。

<デメリット>

- ・健康ゾーンの面積が縮小され、遊具、健康器具の配置に制約が生じ、あまり多くの健康増進活動等への対応ができません。



■ゾーニングA案

(イ) B案：健康増進ゾーンを主体に配置した計画

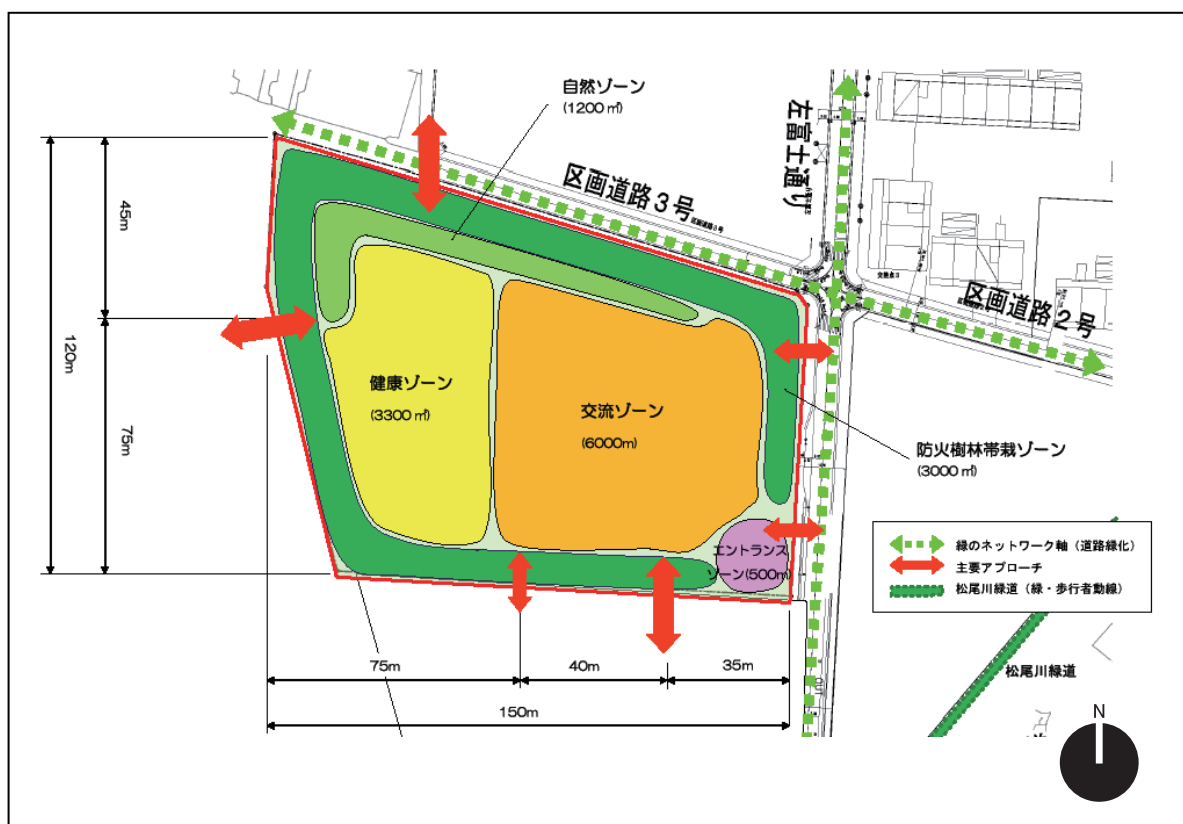
- 健康ゾーンと交流ゾーンで公園エリアの大部分を2分して確保します。

<メリット>

- ・健康ゾーンが大きなスペースで確保できるため、多様な施設の配置が可能で子供からお年寄りまで楽しめる空間が創出できます。

<デメリット>

- ・多目的広場の面積が制約されるため、大きな規模のイベント、野球等スポーツへの対応が困難となるほか、災害時の利用において自由度は狭まります。
- ・施設の配置や規模などにより、A案に比べ施設の整備コストがかかります。



■ゾーニングB案

※ ゾーニング計画については、グラウンド機能の継続とその配置により変更の可能性があります。

(5) 環境（緑）整備計画

ア 植栽計画

植栽計画における樹種選定にあたっては、以下の点に配慮します。

- ・地域の歴史や記憶を継承する樹種
- ・防災機能に考慮した延焼防止効果のある樹種
- ・沿道の歩道緑化と整合した樹種
- ・維持管理などへの住民参加が図りやすい樹種（維持管理が容易である、収穫の楽しみがあるなど）

・高木

サクラ、ヤマモモ（広場やエントランス部などに配置）



■サクラ



■ヤマモモ



シラカシ、スダジイ、マテバシイ、コナラ（せせらぎ周辺に配置）



■シラカシ



■スダジイ



■マテバシイ



■コナラ

・低木

シャリンバイ、ツツジ類（広場外周や地区界などに配置）



■シャリンバイ



■ツツジ

・地被類



■地被類（例：ヘデラ）

・住民管理による花壇など



■花壇（例）

イ 自然保全・再生計画

自然保全や再生のため、公園整備の中でせせらぎ等を設置し、自然とのふれあい空間を創出します。せせらぎ周囲には雑木林等を配置するなどし、多様な生きものが生息する空間の形成を図ります。

■自然とのふれあい空間の創出

- ・せせらぎ等の整備
- ・雑木林等の配置



■せせらぎの整備事例